中国社会主義新農村建設による農村集落の再編に関する基礎的研究 —中国河南省・三里河鎮「尚庄新村」を事例として—

正会員 〇王 額楠*
同 野村織恵**
同 森 祐***

1. 集落
農村住宅 再編
新農村建設 社会主義 中国

1. 背景と目的
中国では、2005年より都市と農村の格差は正を目的と
した「新農村建設」が進められており、各地で大規模な農
村集落の再編が起こっている。本研究では、河南省三里河
郡農村地区を対象として、新農村建設計画による集落集
落の形成過程と発展経緯を把握し、再編による空間変化、
農民の生活、住宅の変化を明らかにすることを目的とす
る。本稿では、河南省三里河郡「尚庄新村」における新
農村建設の実態とその特徴を報告する。

2. 研究方法
文献調査より新農村建設の概要と実施経緯を整理した。
その上で、2005年から新農村建設がどのように具現化
させようとしているのかを把握するため、2010年9月、
河南省三里河県「尚庄新村」の事例を取り上げ、現地調
査を行った。また、当地政府からの新農村建設に関する資
料・文書を入手し、マスタートップや土地利用計画などを
分析することで、「尚庄新村」の建設状況と発展特徴を明
らかにした。

3. 新農村建設の概要
中国では、1978年から改革開放以来、工業化の加速を背
景に、都市と農村との格差が拡大している。中国国家
統計局によると、1978年における都市住民のひとり当たり
可処分所得は295元、農村の一人当たり可処分収入は120元
で格差は2.55倍、その後2006年には3.22倍となってい
る2)。特に、1990年代後半、急速に拡大している。都市
と農村間の経済格差を解消するために、2004年政府によ
り「工業が農業を追い、都市が農村を牽引する」という考
え方が提唱された。さらに、2005年10月の党16期5中
全会で採択された第11次5年計画（2006～2010年）で、
「新農村建設」が重要な歴史的任務と位置付けられ、一連
の重要政策措置が提出された。
2006年中央1号文書3)「中央共産党中央委員会国務院社
会主義新農村建設の推進に関する若干の意見」によると、
農村インフラの整備につながり、社会主義新農村建設にかか
わる物的条件を整えるということが掲げられた。

4. 「尚庄新村」の新村計画
4-1 計画案の概要
中国社会主義新農村建設の目的とは、「生産発展、
生活富裕、風情風俗、村容整備、管理民主」の20の文字
に集約される。農民の生活水準の向上と農村の生活環境
の改善が図られている。河南省三里河県「尚庄新村」
は2009年河南省の文書（「中共河南省委河南省人民政府開
展社会主義新農村モデル村建設の意見」）によって計画さ
れた。分散している9の自然村の440世帯（合計1618人）
を集めて、新たな中心となる場所に建設される新村であ
る（図1）。以前、これらの村は、経済と出稼ぎを主として
て所得が低かった。そこで、新農村建設を契機として
貧困を解消し、近代化を進めると、2010年始めに計画
が立案され、開発業者「テンパクリズム貯蔵投資有限公司」と
連携して、村と企業がともに発展するモデルを実現した。
総投資金額は2.4億（約30億）の予定である。
2010年春、900000万円（約10億円）を投資して440
世帯が入ることができる住宅440戸の着工が始まった。
戸当たり平均床面積を61.67平方、上下水道、電気、
ガス、通信、車庫などが整った農村新居である。2010年
10月に竣工予定であったが、2011年3月現在も工事が
継続されている。さらに、300戸の住宅を建設しており、
予定によれば2011年末に竣工される。

4-2 開発の特徴
河南省三里河県では、2010年1月に「尚庄新村開発
基本計画」を打ち出した。マスタートップの方針として、
土地の集約と合理化、住宅、工場、公共施設、緑地の増加
を図り、農民収入を上げると説明している。具体的には、
以下の4つの特徴を持っている。

A Basic Study of Reorganization on Rural Villages by the New
Rural Policies based on Chinese Socialism

WANG Yingnan, NOMURA Rei and MORI Suguru
(1) 土地の再整備

1990年代、上海市は「達木並行」という農村計画思想を打ち出した。分散している自然村がいくつかをひとつに集中させ、農村の生活環境の都市化を、効率的に図ろうとする計画思想である。これに、社会主義新農村建築の影響で、全国の農村地域に広がった。「尚庄新村」の計画案にも、この思想が採用されている。計画前に、9の村が分散しているため、土地利用の効率化が問題視されていた。集約化により、390 畝（2万、約 260,000 平米）の余剰地を生み出す。その一部を農地に転換したり、工場開発用地も構想されている。

(2) 居住環境の統一性計画

「尚庄新村」は、520 畝（2万、約 346,667 平米）の開発面積で居住区と公共建物区に区分される。総建築面積は約 24万平米である。新村の中心には病院・幼稚園・老人ホーム・運動場などの公共施設が配置され、新設水路に沿って景観緑地が整備される。居住区の中には、低層・中層・高層住宅が区画整理される（図2）。図3は中層住宅に属する3階建て住宅の例である。

新村は、企業と連携してこの宅地開発を進めている。開発業者は全国で入札を募り決定された。原則的に農民が自由に入居できるが、その際、農民委員会に申込を提出し、開発業者と「建新折込」契約を結ぶ必要がある。当該契約は、新村への入居と引き換えに、旧村の住宅を取り壊し、宅地と農地が回収されることに同意するという内容である。回収された土地は区画整理され、新村入居後、原則として農地として分配される。2010年末までに80%の農民が契約を結んでいる。新村の住宅は、政府と駅民の契約によって、一人40平米が無償提供される。それ以外の用途面積は600元（約 8,000 円）となり、開発業者に支払う。一方、旧村以外の居住希望者は、開発業者に設定される額で購入する。現時点での家賃予定額は1200元/平米（約 16,000 円）である。

(3) 新産業の形成

新村の今後の発展と農民の収入増加を保障するために、村の中に新たな産業を育成することが新農村開発の主要なプロジェクトとして位置づけられている。具体的には、天の変する産業である。第一は植物オイル産業である。河南恒益会社の資本を引き入れて、年間生産量15万トンの植物オイル産業をつくり、500人の雇用機会を創出できると構想する。第二は、物流、農業観光業、コミュニティサービスなどの第三次産業を発展させる。第三は外部資本と連携して革新的な技術を導入し、新作の生産という現代農業を従事し、農民の所得拡大を目指している。

(4) 農民生業の転換

上述とも関連し、農民の収入構造の転換が図られている。9の村のうち、2の村が農地に回収される予定である。60歳以上の高齢者は集落制度で保存されるが、若者は出稼ぎや新産業への従事により生活することが想定されている。それ以外の村は、農地が保留されるため、農業を継続する。

5. まとめ

本稿では、新農村建設の概要と尚庄新村の基本計画について把握した。今後は、まず、土地利用計画や建築計画などの資料に基づいて、新村の計画原則と理念を把握する。さらに、農村集落の空間的な変化に関して、計画公開での住民の生活、生活・生産空間の使い方等の分析を行う予定である。

【注】
1）中国国家統計局のデータ。
2）中国共産党中央委員会が各年の最初に発表する総数のな

Graduate Student, Graduate School of Eng., Hokkaido Univ.
Assis. Prof., Faculty of Eng., Hokkaido Univ., Ph.D.
Prof., Faculty of Eng., Hokkaido Univ., Ph.D. in Eng.